

大河津分水可動堰の起工式を挙りました。 信濃川河川事務所

大河津分水可動堰は、信濃川と大河津分水路の分岐点に位置し、昭和6年の完成以来、約70年もの間、越後平野を洪水から守り、治水、利水の両面で地域の発展に大きく貢献してきました。

信濃川河川事務所では、現在、長年の老朽化、基礎部の空洞化等による堰の安全性が低下したため、新しい堰の改築事業を平成25年頃の完成を目指して進めており、いよいよ本体工事に着手することになったことから、去る9月30日、工事現場において「大河津可動堰改築工事起工式」を挙りました。

式典には、地元選出の国会議員をはじめ、地域の代表、関係機関等の約200名の皆様にご出席いただき、工事の安全を祈念して鍬入れを行ったほか、新しい可動堰の色彩を広く意見募集した上で決定した経緯等を報告しました。

また、地元燕市の伝統芸能で酒吞童子を題材とした「分水太鼓」が締め括りで披露され、その熱気あふれる演技に会場は祝賀ムードに包まれました。



分水太鼓の熱演



大河津可動堰の完成イメージ

ゲートはウグイス色に、管理橋はカラシ色に塗装される。